

1.2 音声案内の必要性と現行サービスの課題

ここで本調査研究会が着目したデータは、視覚障がい者の携帯電話利用率が82.8%で（総務省郵政研究所（現総務省情報通信政策研究所）：「障害のある方々のインターネット等の利用に関する実態調査」）、生活の必携アイテムとなっていることである。また、最近では音声読み上げ機能のついた携帯電話も複数機種市販されている。携帯電話は視覚障がい者一人ひとりが身につけている情報伝達ツールであることから、介助や点字以外の外出支援を考えると、携帯電話による音声案内が、有効な手段の一つとなる。

携帯電話の音声によるトイレ案内システムの研究の比較対象として、音声を活用したトイレ情報の案内の方法にはどのようなものがあるか調査したところ、以下のものが挙げられた。

商品名：音声情報案内装置 ポッチ

概要：録音機能内蔵型のトイレ音声案内装置をトイレ個室に設置することにより、個室の情報を視覚障がい者に音声で知らせる方式

実用新案登録商品